

キリスト教保育

年主題

つながって

～今、わたしを生きる～

平和の祈り
保育者のために
村上恵理也

新連載

領域「表現」とは

く今一度原点にかえって

尾根秀樹

小論

園から学校へ橋を架ける

永倉みゆき



2022 OCT. 10

熱心で、うむことなく、靈に燃え、主に仕え

口語訳聖書・ローマ人への手紙12章11

信仰の論理を書き終えたパウロは、12章から信仰の倫理に筆を進め、「謙遜」と「愛」こそまず求めよと教えます。11節はこの二つの恵みに与る者に欠かせない姿勢を示しています。

「熱心」はイエスのご性質であり、パウロの特徴でもありました。「指導するものは熱心に指導」せよとも言っています。しかも一時的な熱心ではなく「うむことなく」持続する情熱。初代教会の目覚ましい成長はまさに「ひたすら」さにあったことを知っています。さらに聖靈に清められ、押し出されて、誰に対しても主に仕えるように生きるところに、キリスト者の特性があらわれていると思います。

今月（1987年度）のテーマ「とりくむ」には、意味があるようです。第一は熱中し夢中になる（集中）。第二は継続してやる、やりとげる（持続）。第三はいろいろな方法で試みる（挑戦）。—「熱心で（集中）うむことなく（持続・挑戦）」—

第一の点（集中）。子どもには心ゆくまで没頭できる体験が必要で、充足感が味わえるとさらに集中力が高まると言われます。遊びきる体験は、子どもを一步成長させるように思われます。第二の点（持続）。大場牧夫先生（当時・桐朋幼稚園）は園生活を三階建ての建物に例えています。即ち一階は「遊び」の階、遊びこそ「子どもの生活の最高段階であり、自己の内面を自由に表現したもの…子どもの遊びの中には喜びと自由と満足がある（『人間の教育』フレーベル）ことを先ず再認識しています。二階は「生活の仕事」の階、園生活には必要な役割のあることも知り喜んでそれに取り組む段階。三階は「課題に向かう活動」の階、目標を目指した活動に取り組む段階。一つの課題に向かう活動をやり遂げた達成感や成就体験は、たくましく生きる上で貴重な経験になっていくようです。第三の点（挑戦）。「うむことなく」あきらめず、「今度はどうやろうか」と何回もいろいろと方法を試みることも「とりくむ」ことではないでしょうか。

「とりくむ」とは色々試みることであり、必要ならやり直すことでもあるのです。「バイタリティとは、最後までやり抜く能力だけではなく、最初からやり直す能力にもあるのだ」と言った人がありますが、臨機応変が求められる保育の業にこれは大切なことと思います。

私自身じっとはるかかなたを見据えて「とりくむ」保育者になりたいと願うと共に、子どもたちにも、とりかかるだけですぐにやめたりあきらたりすることなく、文字通り「とりくむ」ことのできる人間となってほしいと思います。

吉井秀夫・執筆 当時・鹿屋キリスト教会牧師 信愛幼稚園園長
1987年『キリスト教保育』誌10月号より

キリスト教保育

第643号10月号



年主題

つながって

～今、わたしを生きる～



表紙絵 田中横子
カット 長野祥三 長縄えいこ 金井ユリ
中畝治子 松成真理子

幼子とともにキリストへ

目次

〈巻頭言〉私と仕事 望月集

〈論説〉多様性を尊重する保育(その1)

―「外国につながる子ども」の増加と保育の課題― 日浦直美

図書紹介 福元麻寿美 染谷雅広

〈小論〉園から学校へ橋を架ける(1) 永倉みゆき

聖書にきく・お話 篠田真紀子

18 14 13 6 4 3 2

【カリキュラム】

10月 月のねがい表

心にとめて 寺田千栄

0・1・2歳児 新生保育園

実践からの学び 西川恵

子どもの祈り 矢部尚子

心にとめて 小出肇

3・4・5歳児 ドレーパー記念幼稚園

実践からの学び 加藤真央

目福口福耳福 黒田恵美子

〈連載〉キリスト教保育Q&A 塩谷直也

〈新連載〉領域「表現」とは 尾根秀樹

礼拝のお話 横田法子

風 吉岡康子 編集子

連盟だより

平和の祈り 保育者のために 村上恵理也

59 58 57 47 44 42 41 40 34 32 31 30 24 22 21